●発行／豊岡市　●編集／政策調整部秘書広報課
☎0796-23-1111　FAX23-1124
市長室FAX24-1004
〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp
（支所）・竹野☎47-1111・日高☎42-1111・城崎☎32-0001・出石☎52-3111・但東☎54-1000

豊岡偉人伝　14

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。
その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課☎23-1160

東京大学育ての親　浜尾（はまお）　新（あらた）

浜尾　新

（1849～1925）
京町出身

1849年　江戸豊岡藩邸に生まれる
1862年　14歳　豊岡に帰住する
1869年　21歳　慶応義塾に入塾
1873年　25歳　アメリカに留学
1877年　29歳　旧東京大学３学部の綜理補に就任
1885年　37歳　美術教育制度調査のためヨーロッパに派遣される
1893年　45歳　帝国大学総長（第３代）に就任
1897年　50歳　文部大臣に就任（第２次松方内閣）
1905年　57歳　東京帝国大学総長（第８代）に再任
1907年　59歳　勲功により男爵を授けられる
1924年　76歳　枢密院議長に任じられる
1925年　77歳　東京で逝去、従一位に叙せられる

幼小期～苦学のとき

浜尾　新は但馬豊岡藩江戸屋敷で生まれました。浜尾家は豊岡藩士として江戸詰めが続いた家でしたが、５歳の時に父を亡くし、14歳の時、幕府の参勤交代制がゆるむと豊岡に帰住しました。そこには家屋敷もなく、五軒長屋の一戸で母子のつつましい生活が始まりました。

父を早く失ったため、幼くして藩の文筆業務の仕事や、農兵の訓練に従事しましたが、幼少からしつけられた勉学への志向は高く、夜は天井からひもを首にぶらさげて睡魔と戦い読書したとか、夜勤でも眠ろうとはせずに読書したという逸話が伝えられています。

豊岡藩の藩校「稽古（けいこ）堂」では、儒学者の池田草庵の講義を受け、成績が抜群であったことから人材育成のための藩費遊学生に選ばれました。21歳のとき慶応義塾や大学南校（のちの旧東京大学）で学んだのち、文部省官僚として大学南校監事の、任を受けました。

東京大学育ての親

1877年に旧東京大学が設立されると、３学部（法学部、理学部、文学部）綜理補として同郷の加藤弘之綜理を補佐しました。また、45歳の若さで第３代帝国大学総長の要職についています。

その後、第２次松方内閣の文部大臣を経て、第８代東京帝国大学総長に再任しました。再度の総長は６年９カ月にわたり、この間に大学を最高学府として機構を整えていきました。

浜尾新像

現東京大学キャンパスのほぼ中心、安田講堂の南東に彼のひときわ大きな銅像があります。大学の正門の意匠、銀杏（いちょう）並木および講堂の位置は彼の発案といわれています。銅像の裏側には彼が亡くなった際に竣工間もない安田講堂で葬儀が行われ、千人以上が参列したことが記されています。

▲浜尾新像

人材を育てた浜尾　新

彼を、政治家、教育者、学者という一言で言い表すことはできません。人としての公正さ、私心のなさ、その人格から要職を熱望される人であったことは間違いありません。「人を育てるところに学校あり」それを自ら実行しました。

東京大学の歴史（沿革）

1877年　（旧）東京大学創設（東京開成学校と東京医学校を合併）
1886年　帝国大学に改組（工部大学校を統合）
1897年　東京帝国大学と改称
1947年　東京大学と改称

【表紙写真】季節を先取りした「城崎温泉　2013花火フェスタ」が、５月25日、６月４日、11日の３日間、城崎温泉街で開催されました。梅雨の夜空を彩る大輪の花に、温泉街を行き交う観光客らは歓声を上げ、見入っていました。

VEGETABLE OIL INK　「広報とよおか」は、環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。